

## サマースクールを通じた実践的グローバルプログラム

京都工芸繊維大学 国際センター長 PEZZOTTI Giuseppe

## 活発化するサマースクール

二〇一六年度に二つのプログラムにより開始された京都工芸繊維大学のサマースクールは、年々その数を増やし活発化している事業で、協定校を主とする連携大学（一部、一般公募もあり）から学生を招き、一週間〜二カ月の間、ワークショップや研究プロジェクトを行うものである。事業の根幹には海外の協定校とのパートナーシップがあり、本学で実施するサマースクールと対になる海外短期派遣プログラム（サマーキャンプと総称している）も当該連携大学と共同実施するなど、互恵的関係を構築している。

内容や形態は、それぞれの分野や目的により異なるが、異なる背景を持つ学生が集まり、協働作業に取り組むことによる、専門領域外への知識と視野の拡大、異文化理解力の促進、言語・非言語によるコミュニケーション能力の向上を狙いとしている。

「Monotsukuri Engineer」サマースクールは、タイのキングモンクート工科大学トンブリ校（KMUTT）で日本のものづくりに関する学修をしている学生を、本学が提携している綾部工業団地（京都府綾部市）にて受入れ、一〇社ほどを見学するというオーダーメイド型のプログラムである。様々な業種の工場や開発現場を集中的に見学できる工業団地ならではの研修を通じて、日本で働くイメージが湧いたというタイ人学生も多い。同団地にはタイ国内に拠点や工場を有する企業も多いことから、各企業においてはタイの大学との連携やタイ人のインタインの受入れのきっかけとして捉えていただければと考えている。「Electronics」サマースクールにおいては、フランスのオルレアン大学ポリテク・オ

表 2018年に開講された京都工芸繊維大学サマースクール

プログラム名	分野	主な対象大学	開始年
KIT Electronics Summer School	電子・情報工学	オルレアン大学（フランス）、カザフ国立大学（カザフスタン）ほか	2016
KIT Fiber & Textile Summer School	繊維工学・繊維材料	東華大学、香港理工大学（中国）、カタロニア工科大学（スペイン）ほか	2016
Kyoto Startup Summer School	全分野	スタンフォード大学（アメリカ）アールト大学（フィンランド）	2016
KIT-KMUTT Monotsukuri Engineer Summer School	ものづくり/機械工学	KMUTT（タイ）	2017
Textile Summer School	全分野	英国王立芸術学院、ロンドン芸術大学（イギリス）デザインアカデミー・アイントホーフェン（オランダ）	2017
KIT Summer School on Raman Spectroscopy of Biomaterials and Biomolecules	材料化学・生体化学・医工学	ベニス大学、プレシア大学等（イタリア）ほか	2018
KIT-CMU Biomedical Summer School	昆虫バイオメディカル・応用生物学	チェンマイ大学（タイ）	2018

「Fiber & Textile」サマースクールは、

本学の前身校の時代から一二〇年にわたる歴史を持つ繊維に関する幅広い研究者を擁する点を活用し、世界中の繊維関係の連携大学から学生を受け入れた集中的なプログラムである。日本の近代化と繊維産業の変遷についての解説に始まり、本学の教員による講義、研究室視察、繊維関連の先端企業と伝統的織物の工房訪問等、繊維に関する広範な知識を提供するものとなっている。この仕組みは、留学生と教員のマッチングとしても機能し、サマースクールでの経験をきっかけに、のちに本学に交換留学や大学院進学のかたちで帰ってきている学生もいる。

二〇一八年に初めて開講されたラマン分光に関するサマースクールは、イタリア国内の大学から学生を募り、材料化学、生体化学分野の学生一五名が参加した。医学と工学の領域にまたがる講義や実験は、本学教授のほか、京都四大学連携機構として連携している京都

ルレアンからの学生を主体に、ドイツ、カザフスタン、中国などの学生と、本学の学生を含めた多様な国籍からなるチームを編成し、チームごとにArduinoを用いてプロダクトを作るプロジェクトを実施している。二週間という短期間で、基本となる知識・技術の習得と、チーム内での多言語コミュニケーションによりコンセプトの作成、製作、発表、という一連の工程が行われる。三回目となる二〇一八年度においては、オムロン株式会社の協賛を得、電子部品などを提供いただいた他、最終プレゼンテーションにおいては同社からも審査に参加いただいた。最終的に、視覚障害者用歩行支援センサーの提案を行ったチームが同社の賞を受賞した。このような事業が産学連携の端緒となる一例である。

## 国際的な環境でコラボレーション

KYOTO Design Lab (D-Lab) を中心に行っているプログラムもある。一つは起業に興味を持つ参加者を対象にした「Kyoto Startup Summer School」である。これはデザイン思考、リーンスタートアップ、資金調達、マーケティング、製品開発、ピッチング（資金獲得のためのプレゼンテーション）などの幅広いトピックを実践的に学べる集中プログラムで、本学の教員に加えてスタンフォード大学やアールト大学の教員や起業家などがワークショップやレクチャーを担当している。二〇一八年には四六カ国から一五三人の申

府立医科大学等から講師も招いて行われた。

このプログラムへの反響は大きく、次年度も継続予定であるほか、イタリアのプレシア大学で対になるプログラムが開講されることとなった。サマースクールをきっかけに、本学学生に新たな海外渡航のチャンスが開けた好例といえよう。

二〇一八年から始まったもう一つのプログラムは、チェンマイ大学の医学部・理学部の学生を対象とした「Biomedical」サマースクールである。二カ月間、八名の修士学生が本学の応用生物学の八つの研究室に配属され、それぞれの研究テーマについて腰を据えて研究を行うというものである。研究室に溶け込んで研究活動に打ち込めることから、国際共著論文につながる成果も挙がっている。

## 産業界との連携も活発化

産業界との連携が活発に行われているプログラムもある。

し込みがあり、一七カ国から三三人が参加するなど、我が国で最も国際的な起業家育成プログラムとして定着しつつある。

今一つは、丹後地方の絹織物産業を対象に、伝統的な絹織物の新たな用途や生産者の新たなビジネスモデルを開発する「テキスタイル・サマースクール」である。本学とイギリスの英国王立芸術学院およびロンドン芸術大学、オランダのデザインアカデミー・アイントホーフェンとの共同プログラムとして行われている。各大学からの教員と学生に公募による参加者を加えた三〇名ほどが京丹後地方に滞在して技術を学び、また現地の生産者とともにワークショップを行ってアイデアを開発した後、KYOTO Design Labのアイデアの展開とプロトタイプ制作までを行う。

いずれのプログラムも、日本からの参加者は三分の一に満たず、参加者間のコミュニケーションは英語で行われる。本学の学生にとっては、国際的な環境でのコラボレーション能力をキャンパス内で身につけられる貴重な機会となっている。

このように、年々プログラム数は拡大し、サマースクールに参加した学生はこの三年間で三〇〇名を超えた。いずれのプログラムも参加者から非常に高い評価を得ており、国を超えた学生間の人脈づくりの場として機能している。また、大学間交流としても、アクティビティの高いプログラムを相互に実施する実績に繋がっている。四年目となる二〇一九年には、さらに多くの学生に参加いただけるよう準備を進めているところである。■